

ある日の育児日記から

(56)

佐藤 和代



年長組になった圭が、初めておともだちの家に泊まってきました。

いまだに添い寝してやらないと眠れない子なのに大丈夫かな? でも「お願い、お願い」とせがむし、Nちゃんのお母さんも「夜泣いたら、車で送っていくから」と言ってくれたのでOKしました。

考えてみれば、この日を待っていたのよね。圭は、毎日毎日、私とびったりくっついて寝ていたんだから。私だってたまにはのびのびの眠りたい。なんてたって、ほとんど六年ぶりよ。といっても、有がいたのであまり変わらなかったりして。ま、

片手があいただけでもいっつもよりましかな。Nちゃんのお母さんはいっつもの倍大変かしら。お世話かけます、感謝感謝。

さて、翌朝Nちゃんのお母さんにお礼を言おうと電話を...と思ったら、いきなり圭が出た。「あ、お母さん。きのう? ちゃんと寝たよ。Nちゃんち、お母さんもお父さんもまだ寝てるの。だから、Nちゃんと力をあわせて、朝ごはん作って食べた。Mちゃん(妹)にも、食べさせたんだ



これが圭とおの眠りだ!

よ。お母さんたち起こさないように、三人で静かに遊んでるよ。  
...あ、あんまり、お世話もかけなかったみたいね。家でもそれくらい、お姉ちゃんできてくれないかなあ。